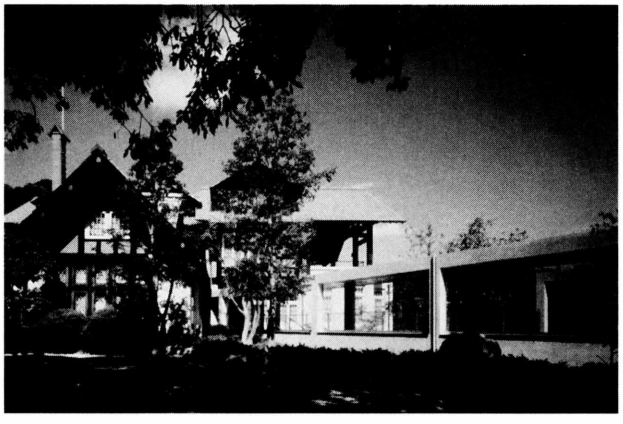
第7回　BELCA賞　ベストリフォーム部門　審査評

アサヒビール
大山崎山荘美術館



所　有　者　アサヒビール株式会社
改修設計者　安藤忠雄建築研究所
改修施工者　株式会社　大林組
所　在　地　京都府乙訓郡大山崎町字大山崎銭原５－３

この美術館は、約70年前に建設された個人の山荘を、アサヒビール株式会社が山荘本体と庭園を、周辺土地を京都府がと、官民で協力して購入し、広く公共に利用される施設として企画された。

施主、設計者共、山荘の古き良き意匠や素材を最大限に生かしたいという共通の想いが強くあり、改装に当っては原形や使用材料を可能な限り残し、新しく取替えられる部分についても違和感のないように執拗なまでの配慮がなされている。又つくりつけの収納家具を陶磁器展示用ケースに改造転用するなどの工夫が見られる。展示品のみならず、建築そのものが美術品であるような扱いが感じられる。美術館機能としてこの山荘だけで展開することには無理があり、温湿度のコントロールの必要な絵画の展示には新館を増築することで対応し、山荘には陶磁器や彫刻などの展示を行っている。この新館は、あえて幾何学的形態を用い、山荘との造形的対比を演出すると共に、できるだけ地中に埋設し、屋上や周囲に植栽を施し、周囲の自然的環境に溶け込むように配慮されていることにも設計者の強い意図がうかがえる。

一時、この山荘は会員制レストランとして使用され、この一帯も含めてマンション開発するという話が持ち上ったが、周辺環境の保全のために官民協力して公共性の高い美術館と周遊公園として再生されたことは高く評価される。

又、山荘の美術館としてのリフォームに際して、デザインバランスを考えた新館の増築をセットさせることにより、美術館機能の充足はもとより、リフォームの効果を一層有効なものとしている点にも評価点が与えられよう。

この地にはもともと桜やもみじの木が多く、春、秋の見頃にはかなりのにぎわいときく。　周辺自然環境の整備により、(あづま家や造園設計に今一つという感じもあるが)山荘庭園も含め、美術館との一体化の中ですぐれた集客性を備えている。

開館（平成８年４月）以来平成９年７月10日までの入場者は20万人を記録し、それ以降も順調に入場者数が伸びている事実は、施設のベストリフォームと共に、この全体プロジェクトの成功を如実に示しているものと考えられる。